

令和5年度第1回岩手県職業能力開発審議会会議録

- 1 開催日時
令和5年6月15日（木）14:00～16:00
- 2 開催場所
岩手県水産会館 5階 大会議室
- 3 議 題
 - (1) 報告
 - ア 令和4年度県立職業能力開発施設における学卒者訓練実施結果について
 - イ 令和5年度県立職業能力開発施設における学卒者訓練実施状況について
 - ウ 令和4年度卒業・修了年次生アンケート調査結果について
 - (2) 協議・意見交換
第11次岩手県職業能力開発計画の令和4年度実績と令和5年度の取組みについて
- 4 その他

5 会議に出席した委員

【委員】

伊藤 智恵子	職業訓練法人釜石職業訓練協会事務局長
岡田 寛史	公立大学法人岩手県立大学総合政策学部教授
齊藤 眞理子	学校法人スコレ盛岡スコレ高等学校校長
瀬戸 和彦	岩手県高等学校長協会工業部会長
西村 文仁	国立大学法人岩手大学理工学部教授
工藤 昌代	株式会社ホップス代表取締役
田鎖 健一	株式会社エフビー代表取締役社長
千葉 智充	株式会社千葉建設代表取締役社長
引地 千恵	有限会社開運興業代表取締役
吉田 ひさ子	有限会社いわてにつかコミュニティ企画代表取締役
小林 齊	電機連合岩手地域協議会事務局長
佐々木 正人	日本労働組合総連合会岩手県連合会副事務局長
佐藤 茂生	岩手県東北電力関連産業労働組合総連合会長
菅原 寿美子	岩手県社会福祉事業団職員労働組合特別執行委員
豊嶋 昌勝	全日本自動車産業労働組合総連合会岩手地方協議会議長

【特別委員】

日原 潤一	岩手労働局職業安定部長
多田 拓章	岩手県教育委員会事務局学校教育室首席指導主事兼産業・復興教育課長

6 欠席した委員

【委員】

なし

【特別委員】

なし

7 事務局出席者

高橋	孝政	商工労働観光部	副部長兼商工企画室長
三河	孝司	定住推進・雇用労働室	室長
菅原	俊樹	〃	労働課長
金今	邦仁	〃	特命課長
飯坂	覚	〃	主任主査
佐々木	克幸	〃	主査
小野寺	絵理	〃	主任
上野	桃花	〃	主事

令和5年度第1回
岩手県職業能力開発審議会

日時 令和5年6月15日(木) 午後2時
場所 岩手県水産会館 5階 大会議室

1 開 会

○菅原定住推進・雇用労働室労働課長 皆さん、本日は足元の悪い中、お集まりいただきましてありがとうございました。定刻になりましたので、始めさせていただきます。

本日進行を務めさせていただく労働課長の菅原と申します。今日はよろしくお願ひいたします。それでは、途中まで進行を務めさせていただきますので、皆様よろしくお願ひいたします。

本日御出席いただいている委員数は、委員総数 15 人中 15 人でございます。間もなくもう一人の方がお見えになる予定でございます。過半数以上の出席でございますので、岩手県職業能力開発審議会条例第 5 条第 2 項の規定により、会議が成立しておりますことを御報告いたします。

2 あいさつ

○菅原定住推進・雇用労働室労働課長 それでは、初めに高橋商工労働観光部副部長から御挨拶を申し上げます。

○高橋商工労働観光部副部長兼商工企画室長 皆さん、こんにちは。県の商工労働観光部副部長の高橋でございます。

令和 5 年度第 1 回岩手県職業能力開発審議会の開催に当たりまして、委員の皆様におかれましては、御多用のところ御出席を賜りまして、厚く御礼申し上げます。また、日頃から本県の職業能力開発の推進をはじめ本県産業の振興にお力添えいただいておりますことを深く感謝申し上げます。

本年度、いわて県民計画第 2 期アクションプランのスタートの年度になっておりますけれども、この中でライフスタイルに応じた新しい働き方を通じまして、一人一人の能力を発揮できる環境づくりということを掲げておりまして、将来の本県産業を担う人材を育成するとともに、就職を希望する学生の県内就職を促進するための施策を展開するということとしていただいております。特にも仕事・収入の分野では、社会環境の変化に対応した職業能力開発の支援といたしまして、昨今の D X の急速な進展に対応したセミナーですとかリカレント教育、リスクリング教育の充実などによりまして、企業においても人への投資と労働者の主体的な能力開発を促進することとしております。

また、第 11 次岩手県職業能力開発計画に基づきまして、関係団体との連携の下、職業能力開発の各種施策を展開し、本県が振興する産業の発展を担う人材を育成することとしております。

本日の審議会では、産業技術短期大学校をはじめとする県立職業能力開発施設の令和 4 年度の訓練実施結果及び令和 5 年度の訓練状況並びに第 11 次岩手県職業能力開発計画の進捗状況を御報告することとしております。今回は、委員の改選が行われまして、本日は委員全員出席ということでございますけれども、新たに委員になられた方もおられます。委員の皆様方にはそれぞれのお立場から忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

○菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、ここからは着座にて進行させていただきます。

3 委員紹介

- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 次に、本日は委員が改選されて初めての会議ということでございますので、私のほうから委員の方々を御紹介いたします。それでは、最初にまず審議会の委員の方々を御紹介します。職業訓練法人釜石職業訓練協会事務局長の伊藤委員でございます。
- 伊藤智恵子委員 伊藤と申します。よろしく願いいたします。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、公立大学法人岩手県立大学総合政策学部教授、岡田委員でございます。
- 岡田寛史委員 岡田でございます。どうぞよろしく願いいたします。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、学校法人スコール盛岡スコール高等学校校長の齊藤委員でございます。
- 齊藤眞理子委員 齊藤でございます。どうぞよろしく願いいたします。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、岩手県高等学校長協会工業部会長の瀬戸委員でございます。
- 瀬戸和彦委員 瀬戸でございます。どうぞよろしく願いいたします。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、国立大学法人岩手大学理工学部教授、西村委員でございます。
- 西村文仁委員 西村です。よろしく願いいたします。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、株式会社ホップス代表取締役、工藤委員でございます。
- 工藤昌代委員 よろしく願いいたします。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、株式会社エフビー代表取締役社長、田鎖委員でございます。
- 田鎖健一委員 田鎖です。よろしく願いいたします。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、株式会社千葉建設代表取締役社長、千葉委員でございます。
- 千葉智充委員 千葉です。よろしく願います。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、有限会社開運興業代表取締役、引地委員でございます。
- 引地千恵委員 よろしく願いいたします。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、有限会社いわてにつかコミュニティ企画代表取締役、吉田委員でございます。
- 吉田ひさ子委員 遅れて申し訳ございませんでした。よろしく願いいたします。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、電機連合岩手地域協議会事務局長、小林委員でございます。
- 小林齊委員 よろしく願います。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、日本労働組合総連合会岩手県連合会副事務局長、佐々木委員でございます。
- 佐々木正人委員 連合岩手の佐々木です。よろしく願います。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、岩手県東北電力関連産業労働組合総連合会長、佐藤委員でございます。
- 佐藤茂生委員 どうぞよろしく願います。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、岩手県社会福祉事業団職員労

働組合特別執行委員、菅原委員でございます。

- 菅原寿美子委員 菅原と申します。よろしくお願いいいたします。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、全日本自動車産業労働組合総連合会岩手地方協議会議長、豊嶋委員でございます。
- 豊嶋昌勝委員 豊嶋です。よろしくお願いたします。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 次に、特別委員の方を御紹介いたします。初めに、岩手労働局職業安定部長の日原特別委員でございます。
- 日原潤一特別委員 日原です。よろしくお願いいいたします。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 次に、岩手県教育委員会事務局学校教育室首席指導主事兼産業・復興教育課長、多田特別委員でございます。
- 多田拓章特別委員 多田です。よろしくお願いいいたします。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 本日は委員 15 名、特別委員 2 名の全員出席となっております。

4 会長選出

- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、次第 4、会長選出に移ります。会長は、条例第 4 条第 1 項の規定により、学識経験者である委員のうちから委員の互選により選出することとなっております。選出方法はいかがいたしましたでしょうか。事務局のほうでよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 ありがとうございます。それでは、事務局一任ということでお願いいいただきましたので、事務局案をお示ししたいと存じます。よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 事務局案といたしましては、岡田寛史委員にお引き受けいただければいかがかと存じますが、いかがでございますでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 ありがとうございます。それでは、岡田委員に会長をお願いしたいと存じます。岡田委員、正面の席にお移りください。それでは、岡田会長から一言御挨拶いただければと存じます。
- 岡田寛史会長 改めまして、岡田でございます。今回で 4 期目に入ります。恐らくですけれども、これが最後になるのではないかと考えております。いずれにせよ、これまで同様、皆さんの御協力を賜りながら、最後まで精いっぱいやらせてもらいたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいいたします。
- 菅原定住推進・雇用労働室労働課長 続きまして、岡田会長には条例第 4 条第 3 項の規定に基づき、会長職務代理者の指名をお願いしたいと存じます。

○岡田寛史会長 それでは、会長職務代理者を指名することになっているようですので、指名させていただきます。

会長職務代理者は、従来からの慣例により学識経験者のうち岩手県高等学校長協会工業部会長にお願いしておりますので、瀬戸和彦委員にお願いしたいと思います。瀬戸委員、どうかよろしく願いいたします。

○瀬戸和彦委員 どうぞよろしく願いいたします。

○菅原定住推進・雇用労働室労働課長 ありがとうございます。

それでは、議事に入ります前に資料の確認をさせていただきます。委員の配付資料なのですが、まず最初に次第、名簿、着席図、あと資料に番号が振ってありますのが1-1、1-2、あと資料2-1、2-2、資料3、資料4、参考資料1と参考資料2でございます。あとこのほかリーフレット2種類お配りしています。岩手県の職業能力開発施設のご案内というものと、あと岩手県能力開発セミナーコースガイドというものでございます。お手元がない資料とかございましたら、お手を挙げていただければと思いますが、大丈夫でしょうか。

[「はい」の声あり]

○菅原定住推進・雇用労働室労働課長 ありがとうございます。

5 議 題

(1) 報告

ア 令和4年度県立職業能力開発施設における学卒者訓練実施結果について

○菅原定住推進・雇用労働室労働課長 それでは、議事に入らせていただきますけれども、本審議会は条例第4条第2項の規定により、会長が議長となって運営することとなっております。岡田会長、よろしく願いいたします。

○岡田寛史会長 それでは、次第に従って議事を進めてまいりますけれども、まず最初に今回改選ということで、新任の方が非常に多くいらしています。この審議会というのは、委員の皆様いろいろな御質問や意見をいただくことが目的ですので、それをぜひ積極的にやっていただきたいなと思っております。新任の委員の皆様には、恐らく初めて目にする資料であったりとか、あるいは説明であったりだと思うのです。なので、不明な点はどんどん質問していただいて、そして活発な意見交換をしていただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは、早速議事を進めます。報告のア、令和4年度県立職業能力開発施設における学卒者訓練実施結果について、事務局から説明をお願いいたします。

○上野定住推進・雇用労働室主事 事務局から説明させていただきます。定住推進・雇用労働室の上野と申します。本日はよろしく願いします。着座にて説明させていただきます。

次第にございますア、令和4年度県立職業能力開発施設における学卒者訓練実施結果について、資料1-1から説明させていただきます。要点をかいつまんで説明していきます。

では、御覧ください。まず、産業技術短期大学本校のほうから見ていきま

す。就職率は100%となっておりまして、県内に事業所がある企業への就職率全体で77.8%となっておりまして、右のほうに進みまして、県内に本社がある企業への就職率が本校で計47.2%となっておりまして。

続きまして、水沢校を見ていきます。水沢校の就職率は内定者の就職の辞退者が1名おりまして、就職率は96.8%となっておりまして。県内に事業所がある企業への就職率80%、県内に本社がある企業への就職率36.7%、短大の計では本校、水沢校合わせまして就職率99.2%、県内に事業所がある企業への就職率78.3%、県内に本社がある企業への就職率が44.5%となっておりまして。

続きまして、千厩高等技術専門校、宮古高等技術専門校、二戸高等技術専門校の能開校の合計を見ていきます。こちら就職率全体で100%となっておりまして。県内に事業所がある企業への就職率97.8%、県内に本社がある企業への就職率が84.8%となっておりまして。こちら短大と能開校全施設合計合わせまして真ん中のほうですね、就職率99.4%、県内に事業所がある企業への就職率が83.7%、県内に本社がある企業への就職率が55.4%となっておりまして。昨年度の実績を見ますと、就職率と県内に事業所がある企業への就職率が少しですが、高くなっているところがございます。

下のほうに進みまして、参考、令和4年度施設別求人状況については、御覧のとおりですが、産業技術短期大学校矢巾校産業デザイン科の修了者数が21人のうち、右のほうの求人状況の計の人数を見ますと113人になっておりまして、こちら一番求人数が少ないところとなっております。

また、高等技術専門校の宮古校自動車システム科の修了者数が9人に対して、求人数が右のほうに1,219人と一番高くなっている状況でございます。

資料1-1は以上となります。

続きまして、ページをめくっていただいて、資料1-2を御覧ください。こちら県立職業能力開発施設の就職率の推移となっております。1、産業技術短期大学校の表を御覧ください。こちら就職率、県内就職率、県内事業所、所在企業への就職率となっております。就職率は、平成28年から令和4年まで98から100%で推移しております。県内就職率は51から59%とほぼ横ばいで推移してございます。県内事業所、所在企業への就職率が74から81%と全体的にほぼ横ばいで推移しているところがございます。

下のほうの(1)、本校で棒グラフにしている表を御覧ください。特出ししますと、メカトロニクス技術科、電子技術科、真ん中の情報技術科、下のほうの水沢校の生産技術科、電気技術科のところでは、大手であったり、本社が県内にある事業所であったり、赤いほうのグラフ、県内就職率がばらつきが見られるのが特徴となっております。

続きまして、右のほうの2、職業能力開発校(高等技術専門校)の表を御覧ください。こちら就職率はほぼ98から100%で推移してございます。県内就職率は60%以上で、県内事業所、所在企業への就職率は80%以上で、県内の就職率が高い傾向が見られます。こちらについては以上となります。

資料1の説明は以上となります。

○飯坂定住推進・雇用労働室主任主査 すみません、事務局からただいまの説明の補足説明させていただきたいのですが、ちょっと御意見賜りたいことがございますので、お話しさせていただきます。

令和4年度第2回の審議会におきまして、岩手県第2期アクションプランとこののを御提案いたしまして、審議会でおおむねその方向でということと了解

されたところでございます。その中に、今の説明にありました資料1—1及び資料1—2にある県立職業能力開発施設における県内に事業所がある企業への就職率というところをお示ししたところでございます。2つの就職率がありまして、1つは県内に本社がある事業所への就職率、もう1つは県内に事業所がある就職率です。県内に本社があれば、そこは県内就職だよというふうに見ているのが県内に本社があるところの就職率になります。一方で、県内に本社がある事業所並びに県外に本社があるのだけれども、盛岡、岩手県内に営業所とか、支店とか、工場とかがありますよというのを含めて示したのが県内に事業所がある就職率になります。県内に本社があるところの就職率が低いです。先ほど言いました第2期アクションプランにおきまして、後者のほうの数字でこれから就職率をお示しするという事になっております。

ただ一方、職業能力開発審議会のほうでは、従来両方の数字を出していた経緯がありまして、今回も両方、県内に本社あるいは県外に本社があるのだけれども、県内に事業所等があるというのも含めて数字をお示ししたところがございます。

今後審議会のほうにおきましては、後者のほうで数字を上げさせていただきたいと思うのですが、御意見をお伺いしたいと思います。

○岡田寛史会長 これは報告になってはいますが、それについては審議的な内容になりましたが。

○飯坂定住推進・雇用労働室主任主査 御意見を伺って、こちらで今後またもんでいきたいと思っております。

○岡田寛史会長 はい、分かりました。ただいま御説明ありましたように、前からいらした委員の方は御存じだと思いますが、県内就職率は2つ同時に出しているのです。本社が県内にあるのかと県外なのか、県内就職、そういう形でデータを出していたのだけれども、今後は県内に事業所があれば全て含めてまとめてデータにしていきたいという御提案ですが、これに対していかがでしょうか。まず、それを伺ったほうが早いかな。そういったことも含めながら、その前にあった説明も含めまして御質問、御意見賜ればいいかなと思います。どうぞよろしく願いいたします。いかがでしょうか。

○工藤昌代委員 確認ですけれども、県内事業所、所在企業への就職率というのは、県外に本社があるけれども、基本的に岩手で就職した人たちを総体的に全員見ているという数字ですね。

○飯坂定住推進・雇用労働室主任主査 はい。

○工藤昌代委員 であれば、初めて参加させていただいてあれなのですけれども、県内に就職している人ということで数字は出るので、問題ないのではないかなという感想です。両方数字はあったほうが参考にはなります。

○岡田寛史会長 そうですね、データの継続性という点もあるかもしれませんし、あるいは県内の使用者団体、使用者委員の方は注目されるのではないかと思いますので、いかがでしょうか。

県内の企業に就職するという数字も別に参考として並べておいていただいたほうがいいかなというところもありますし、でも方針としてはそちらにやる、移行したほうがいいというふうな考え方もあろうかと思いますが、どうでしょうね。

委員の皆さんの御意見をいただかないと事務局もなかなか決めがたいと思うので、いかがでしょうか。継続して維持される方から御意見いただけません

でしょうか、もしできればと。

〔「なし」の声あり〕

- 岡田寛史会長 では、事務局案のように今後一本化、県内就職率は全て含めて一本化という方向でよろしいでしょうか。御意見、異論はございませんか。

〔「はい」の声あり〕

- 岡田寛史会長 ということで、事務局、新しい形で進めていただければと思います。
- 飯坂定住推進・雇用労働室主任主査 ありがとうございます。先ほど委員さんから御意見がありましたとおり、技術専門校とか産業技術短大の学生、卒業生という、本社で採用になったとしても、県内の工場とかに配属されてそのままお勤めになる卒業生が結構ございますので、そちらのほうは数字が実態に近いという部分があります。そういう傾向があるので、こういう数値のほうに一本化していますので、御理解いただきありがとうございます。
- 岡田寛史会長 それでは、改めましてこの資料の内容について御質問等ありましたらぜひ自由にお願いいたします。特に新任の委員の皆さん、どうしてこういうふうな傾向になっているのかとか、結構ですので、もしありましたらお願いしたいと思います。
- 工藤昌代委員 資料1—2のところの産業技術短期大学校本校でスペースになっているところ、R1とか令和4年のところとか、そういうところは定員というか、募集がされなかったところということなののでしょうか、卒業生がいなかったところなのですか。
- 佐々木定住推進・雇用労働室主査 ありがとうございます。産業技術専攻科のところはぽつぽつと空欄になっているところのお話でよろしいでしょうか。産業技術専攻科は、企業等からおいでいただいている学生もおりまして、この空欄につきましても、企業派遣の学生のみで、就職に結びついたというよりは、就職者が訓練をしていたという部分でございまして、空欄となっております。
- 工藤昌代委員 ありがとうございます。
- 岡田寛史会長 では、佐々木委員のほうから。
- 佐々木正人委員 すみません、着座にて質問させていただきたいと思います。
資料1—1の参考、令和4年度の施設別求人状況で、これ見ると結構抜け出ているのが自動車システム科というところでは結構求人が多いように見受けられるのですが、これについては県内、県外、そしてメーカーとか地元の中古屋さんとか、そういうところの求人が多いのかどうかというのを教えてくださいいただければありがたいかなと思っています。
- 佐々木定住推進・雇用労働室主査 ありがとうございます。今おっしゃられましたとおり、自動車システム科におきましては求人人数が非常に高くなっております。この傾向は県内外から広く求人を頂戴していることもありますが、メーカーとか、あとは例えばメーカーの本社ではなくて、地域にある代理店ですとか、場合によっては個人経営の自動車整備工場などから広く求人を頂戴しております。その中で、人数が多いものにつきましては、特に県外の人数が多くなってございますが、県外の手前のメーカーさんですとか、そういったところ

から1社当たり数十人まではいかなくとも、十数人ですとか、営業の職種が欲しいとか、自動車整備工が欲しいとか、様々な職種の中で複数人の求人を頂戴している関係でこのような傾向となっております。

- 佐々木正人委員 ありがとうございます。今各地域の自動車産業のところでは、ディーラーも含めて何しろ中古屋さんとか整備士がかなり人がなかなか来ないという状況があって、これ見るとかなりの人数が来ているので、そのニーズと要求される人材のミスマッチが少しまだあるのかなという感じを受けたものですから、その辺ちょっとお聞きしただけということでした。ありがとうございました。
- 岡田寛史会長 それでは、豊島委員。
- 豊嶋昌勝委員 御報告ありがとうございました。資料1—1で令和4年度の県立職業能力開発施設における学卒訓練実施結果というところで、ちょっと気になったのが進学できる方がいるというところで、どういう分野に進学したのかなと、また県内なのか、県外なのかというところでちょっと気になったので、分かれば教えていただきたいなと思います。
- 佐々木定住推進・雇用労働室主査 ありがとうございます。こちら産業技術短大におきましては、職業能力開発校の専門課程という2年間の訓練を行っております。この関係する職業能力開発施設の中に、さらに学ぶ課程としまして応用課程がございます。近いところだと、宮城県の築館に東北職業能力開発大学校がございまして、そこの大学校応用課程に進学するですとか、あとは関東とか、北海道とか、全国にある応用課程に進学している者がありまして、おおよそそういった進学先となっております。
- 豊嶋昌勝委員 ありがとうございます。せっかく習得した技能なので、そういう分野に行くのかなとちょっと気になったのと、あと県内に行くのかというところで、そういう分野でまた成長してくれればいいなと思います。分かりました。ありがとうございました。
- 岡田寛史会長 そのほかいかがでしょうか。

〔「なし」の声あり〕

- 岡田寛史会長 この報告に関しては以上でよろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

イ 令和5年度県立職業能力開発施設における学卒者訓練実施状況について

- 岡田寛史会長 それでは次に、報告のイ、令和5年度県立職業能力開発施設における学卒者訓練実施状況について説明をお願いいたします。
- 上野定住推進・雇用労働室主事 資料2について説明させていただきます。最初に、資料2—1を御覧ください。令和5年度県立職業能力開発施設における入校・在校状況です。こちらも要点をかいつまんで説明させていただきます。
産業技術短期大学校の本校から見ていきます。矢巾校の計の定員充足率は102.9%と充足しておりますが、一方、科ごとに見ていきますと、メカトロニクス技術科の1年生の在校生数18、入校者数が17人のうち応募者数21人、

入校者数 17 人、在校生数 18 ということで、90%と定員割れをしているところ
です。あと産業技術専攻科のところで、1 年生では在校生数 5 名となっており、
定員充足率 50%となっております。

水沢校を見ていきます。水沢校の計では、定員充足率 60%となっております
して、全体で定員割れをしているところ。下のほうの短大計を見ていきま
すと、全体では定員充足率 87.3%となっております。こちら 1 年生を見てい
きますと 88.2%の定員充足率となっております。

続きまして、千厩高等技術専門校、宮古高等技術専門校、二戸高等技術専門
校の計、能開校計を見ていきます。こちら定員充足率 58.7%となっております
。全部のところ定員充足率を下回っているところがございます。能開校学
年別の 1 年生の充足率は 55.0%となっております。

最後に、全施設の学年別の 1 年生を見ていきますと 77.6%、全施設の合計
では 78.3%と充足率は定員割れをしているところでございます。

次のページ、資料 2-2 を御覧ください。県立職業能力開発施設の 1 年生の
定員充足率の推移を御覧ください。1、産業技術短期大学の定員充足率の表
を御覧ください。短大の合計値を見ていきますと、88%から 102%の間で推移
しているところがございます。

続きまして、真ん中のほうの折れ線グラフのところを説明していきます。特
出しで矢巾校では、産業技術専攻科、真ん中のところがございますが、平成
28 年度の 70%をピークに下がっている状況でございます。

下のほうの水沢校のグラフを見ていただきますと、生産技術科では平成
30 年に 95%、電気技術科では平成 29 年度に 100%、建築設備科では平成 29 年
度 125%をピークに下がっているところが特徴でございます。

続きまして、2 番目、職業能力開発校の高等技術専門校を見てみます。こち
らも能開校計で、平成 28 年度から令和 5 年度まで 53%から 83%を推移してい
るところでございます。

こちらまた折れ線グラフのところを見ていきますと (3)、二戸校の建築科
ですね、平成 28 年度の 118%をピークに現在 33%と下回っているところでご
ざいます。

こちら資料 2 の説明は以上となります。

○岡田寛史会長 どうもありがとうございました。それでは、ただいまの事務局の
説明に対して御質問、御意見ございましたら、よろしく願いいたします。い
かがでしょうか。

工藤委員いかがですか。

○工藤昌代委員 実は、私の事業所は今年産業技術短期大学を卒業した生徒さん
が 4 月から入社しています。産業デザイン科卒業の女性なのですけれども、い
ろいろ話を聞くと、その科に入学をしているいろんなデザインについて学ぶわけ
ですけれども、うちみたいなウェブ制作のところ、ある程度学校でもウェブに
ついて学べると思って入っているのだけれども、実は先生がそこに詳しい先生
がいなくて、本来であれば 2 年生のときに学ぶことができる部分が学び切れ
ていなかったというお話があったりとかして、そういう意味で何か入学の段階で、
こういう定員に合わせる段階で先生たちの種類というか、その学科に合わせた
先生たちを補充するみたいなことだったりとかというのは毎年見直しをされ
ている感じなのではないでしょうか。ちょっと離れているかもしれないのですけれども。

○飯坂定住推進・雇用労働室主任主査 御質問ありがとうございます。職員がどう

いうふうな専門分野であるかとか、そういうふうな御質問の解釈でよろしいでしょうか。工藤委員がおっしゃるようにウェブデザインを専攻される学生さん、あるいはプロダクトデザインとかを専攻される学生さんもいて、それぞれに専門の先生もいらっしゃいます。伝統工芸関係の専門の先生もいらっしゃいますし、あるいは人事交流で高校の美術とかの専門の先生をこちらに産技短のほうに招聘しまして、美術の関係をさらに専門に広告デザインとか勉強される学生さんもあります。ある程度幅広く持っていて、その卒業生がどの専攻の先生についてかはちょっと分かりかねるのですけれども、卒業研究の段階で自分がやりたいというふうに強く希望すればその先生につくとかということができる可能性もあったらとお察しいたします。ただ、我々職員の中で異動がかかる部分がございます、毎年専門の先生はいらっしゃることはいらっしゃるのですけれども、先生方がちょっと異動で替わるということもあるということをご理解いただければなと思っております。

産業デザイン科はプロダクトとかプロモーション、広告デザインとかという産業人を育てるアドミッションポリシーを持っておりまして、広く1年生の段階で勉強して、2年生の段階でさらに専門性を高めていくというようなステップ・バイ・ステップのカリキュラムを取っていますので、卒業された学生さんはどの分野を取ったのかちょっと分かりかねるので、希望すればできた可能性もあるかなと感じているところでございます。

○工藤昌代委員 ありがとうございます。

○岡田寛史会長 そのほかいかがでしょうか。

では、引地委員をお願いします。

○引地千恵委員 引地です。今の工藤さんの話で、あっ、なるほどと思ったのですけれども、詳しいことは分からないのですけれども、例えば県立大学のほうで、そういう詳しい先生を時々講師として、そういう連携みたいなものを取ることはできないのでしょうか。

○岡田寛史会長 うちの大学の場合ですか。

○引地千恵委員 例えばです。

○岡田寛史会長 うちも他大学から非常勤に来ていただくことはありますし、行くこともあります。大学のウェブ紹介でどういった教員がいるか、どういうテーマがあるかとか全部公開していますので。それを見て学生も選んで入学しています。

○引地千恵委員 もしそうなのであれば、そういう県立大学の詳しい方の授業も取り入れてみるとか、そういうこともできたらいいのかなと、できるできないは分からないですけれども。

○飯坂定住推進・雇用労働室主任主査 ありがとうございます。今の引地委員さんの御質問、御提案、県立大学さんとか、あるいは岩手大学さんとかの先生をお呼びしてセミナーとか、あるいは専門的な部分をさらに産技短の学生さんとかに教えることができないかという御質問と。

○引地千恵委員 はい。

○飯坂定住推進・雇用労働室主任主査 ありがとうございます。今の引地委員の御質問に対するお答えとしては、講演とかを依頼して、学生全員に対しての講演などはやっているのですけれども、専門的な部分での講習とかセミナーというのはできていない状況ですので、学生のスキル向上とか、さらに新しいフィールドでの研究であるとかという部分では参考となる話ですので、今後検討の一

つとさせていただければなと思います。

○岡田寛史会長 岩手大学さんのほうで非常勤とか。

○西村文仁委員 そうですね、関連してですけれども、私は産技短の矢巾で非常勤講師をしておりますし、ほかにも岩手大学の教員が非常勤講師しているので、矢巾校本校なりで足りない部分の教育課程については外部から非常勤講師を呼んでやっているとは思いますが、ただ、それがどこまでの範囲でできるかというのは分からないのですけれども、どちらかといったら専攻科なので、もしかするとまた本科では違うのかもしれませんが、もちろんそういうのはあるのではないかなと思っています。

○飯坂定住推進・雇用労働室主任主査 ありがとうございます。今、西村委員がおっしゃったとおり、産業技術専攻科ですね、社会人の方がいらっしゃる1年間勉強したり、産技短の卒業生がさらに1年間勉強する課程の産業技術専攻科では、西村委員おっしゃるように岩手大学の先生方を招聘して、その専門分野をさらに勉強しているコースでございますので、実績としてはあります。ただ、デザインは、いわゆる専門課程の部分では一般教科の部分で、岩手大学の先生とかを招聘してやっている例でございます、専門教科の部分については今のところないというのが実態でございます。

○岡田寛史会長 そのほかいかがでしょうか。

齊藤委員。

○齊藤眞理子委員 教えていただきたくて挙手いたしました。産業デザイン科のところで話題になっているところで、圧倒的に女子の在籍というのが非常に多うございますね。その中で、先ほど御説明いただいた資料1—1のところで県内就職率で申し上げますとかなり低めでございますね。女子の生徒さんたち、学生さんたちの県内就職の職種といたしまししょうか、そういった受皿的なものが県内で薄いのかなというふうには実は感じるころがあったので、その実態についてももし可能でしたらば教えていただきたいなと思います。実のところ、私が所属しておりますスコレ高校でも芸術方面に力を入れてございましたものですから、やはり就職のところですね、それから専門学校等への、産技短とかも含めた進学というものを考えている生徒、学生もいますものですから、そういった意味で県内就職の職種というか、そういったことを教えていただけたらありがたいです。

○飯坂定住推進・雇用労働室主任主査 ありがとうございます。齊藤委員の御質問は、産業デザインにおいて、女性が非常に多いという中で、一方で県外に就職しているということは、その女性が県外に流出しているのではないかということですね。今年度の卒業生の状況を見ますと、女性の卒業生が17名おりました、県外就職に関しては6名、女性のうち6名が県外に就職して、17名中6名が県外への就職となっております。産業デザイン科の就職の傾向としましては、就職のボリュームゾーンというのですか、年度後半にシフトしている傾向がございます。一般的には6月あたりが就職の内定のピークなのですけれども、産業デザインは夏以降というか秋口といたしまししょうか、こちらがボリュームゾーンになっています。理由は、県内就職に向けて取り組むのですけれども、県内の求人が出てこなくて、待ちきれずに県外を目指す。県内が難しく、それで県外を目指す。大体こういう傾向があります。時期を逸してしまうと県内の就職がなかなかないというのが実情でして、そこで県外でまだ余力があり採ってもらえるところを目指すというのが実態となっております。

指導としましては、やはり県立の学校ですので、デザインだけではないですけれども、県内就職をまず推す、勧める指導を取っておりますが、どうしてもまず働くということを考えていけば就職口をまず見つけなければならないというような指導になりますので、そういう結果になっているところでございます。

○齊藤眞理子委員 ありがとうございます。

○岡田寛史会長 そのほかございますか。よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

ウ 令和4年度卒業・修了年次生アンケート調査結果について

○岡田寛史会長 それでは、次に進みます。報告のウ、令和4年度卒業・修了年次生アンケート調査結果について事務局から説明をお願いいたします。

○佐々木定住推進・雇用労働室主査 定住推進・雇用労働室の佐々木と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。着座にて御説明申し上げます。失礼します。

資料3のペーパーを御覧ください。右上資料3とついてございます令和4年度卒業・修了年次生アンケート調査結果の概要をグラフなどを用いながら御説明申し上げます。平成30年度から実施してございますこのアンケートですが、今年の卒業生は176名おりました、うち173名から回答をいただきました。回答率としては98.8%となっております。

資料3の一番上の紙は、アンケート結果をまとめた概要となっております、一番左側にはこの令和4年度の卒業生のアンケート結果、その次に令和3年度の回答結果、続いて令和2年度の回答結果という部分を比較できるような形となっております。

問1におきましては、先ほど申し上げておりました卒業生数ですとか、そういった人数で、問2は出身地となっております。

問3、入学についてでございますが、第何志望ですかというところでございます。後ほどグラフでも御説明しますが、例えば産業短大の水沢校に入学した学生が矢巾校を第1志望としていたというようなものもありまして、そういった結果をまとめております。

あと進路についてですとか、ずっと下がりまして、学校生活全般についてということで数値を並べておるのですが、グラフのほうが見やすくなっておりますので、1枚めくっていただきまして、グラフで御説明を申し上げます。

問2、左から御説明いたします。出身地はどこですかという問いですが、全体的にやっぱり岩手県内からの出身者が多くなっております、一番多いのは県南部で37.6%、これは四捨五入して38%になっておりますが、次いで盛岡19%というふうになってございます。

右に参りまして、問3、本校は第1志望でしたかという問いに対しましては、第1志望が82%というふうに高い数値となっております、第2志望では、すみません、数値が抜けておりますけれども、15%となっております。第3志望以下は3.5%です、その具体的なほかに併願した学校としましては、下の表を御覧ください。例えばメカトロニクス技術科に入学された方がほかに受験した学校としましては岩手県立大学、あとは同じ学校内で情報技術科とか、建築科といったように、同じ学校の中でもほかの科を第1志望としていながら、

受験時に第2志望、第3志望まで書くことができるシステムを取っておりますので、第2志望の科に入学される方もいらっしゃいます。例えば下のほうにいきまして、水沢校ですね、建築設備科とございますが、矢巾校の建築科であったり産業デザイン科を第1志望としていた、そういった方もいらっしゃいます。

次に、左下です。問4、進路は次のうちどれですかということで、先ほど就職について説明をさせていただきましたが、ほとんどが就職、青いところ、94.2%の部分になってございますが、大部分が就職をしております。一部進学者がいるというようなグラフになってございます。

続きまして、さらに次のページを御覧ください。問5です。卒業・修了後の就職先は、次のうちどちらですかというところでございます。岩手県内が70.6%というふうになってございまして、先ほど申し上げました県内就職の数字と合致するものではありませんが、学生のアンケートの回答の仕方で県内就職という捉え方がもしかしたら違う部分があったのかもしれない。先ほど申し上げたところは、本社が県内にあるとか、あと事業所が県内にあるという数字を拾ってございましたが、学生の就職内定の捉え方として、まだ配属先が分からないので、ちょっと曖昧に回答していたというところがもしかしたらあったのかなと思います。ただ、圧倒的に岩手県内が多くなってございまして、次いで東北圏内、首都圏となっております。

問6、右側の御説明をします。就職先は希望どおりでしたかというところに対しましては、第1希望、第1希望に近いというのが大半を占めております。

あと問7です、左下、意識し始めた時期はいつですかということで、職業能力開発施設は就職をしていただくというのが大きな目標になっておりますので、入学当時から就職の意識づけというのをしております。ちょっとびっくりするのは、入学以前から意識しているという学生もおりまして、非常に就職意識が高いというのがうかがうことができます。

右下です、問8、就職先の当初の希望と結果、県外希望だったものが県内に行ったりですとか、あと左下の県内希望が県外に行ったりというのをまとめたグラフとなっております。

続きまして、次のページからは各記述のものになってございまして、意見を持っている学生が任意で記述をしていただくものですが、それがこの表になっております。

めくっていただきまして、次ですね、問9、今度は棒グラフでございまして、御覧いただきますと、就職を考えたときに地域を選択した理由を重視した順に選んでくださいということで、企業から選んだと、あとは私生活の充実を優先して地域を選んだ、夢の実現に向けてどこの地域がいいかということで選んだというような内容になってございます。

その下、問10でございますけれども、今度は企業を考えたときに、仕事の職種を選んでいるのは1位から3位までまとめますと79名いらっしゃいまして、一番高いと。次に、安定性、あとは将来性、こういったところから企業を選定しているということが伺うことができます。

次、また1枚めくっていただきまして、問11を御覧ください。地域とか企業を選ぶ優先度を先ほど申し上げましたが、就職を考えたときに重視する割合とすれば、まずは職種を第1位に選んでいるというのがこのグラフから読み取れます。次に地域ですとか、業種を選ぶといったところがこのグラフから読み取れます。

続きまして、問 12 です。岩手県出身の方で岩手県以外に就職を予定している方がUターンを考えていますかということに対しましては、約半数くらいがUターンを将来的には考えているというような結果となっております。

続きまして、次のページ、問 13 を御覧ください。学校の生活環境についてのどのくらい満足していますかというところでもございまして、学習とか生活をサポートしてくれる環境が満足、どちらかといえば満足、青いのが満足で、オレンジがどちらかといえば満足、こちら2つ合わせますと95.9%ということで、多くの方が満足いただけている状況となっております。あとちょっと低い値となっておりますのは(5)の学生寮など寄宿舎施設の充実、こちらが満足、どちらかといえば満足が合わせて71.9%となっております、ほかと比べると少し低い値となっております。

次のページ御覧いただきますと、環境ですとか、そういったものに対して、どちらかといえば不満とか、不満と答えた方が意見を記載いただいた内容をまとめた表となっております。特に冷房、エアコンが欲しかったですとか、あとは古い機械があるといったような記載が見てとれます。またちょっとめくっていただきまして、次のページには学校生活全般について気づいた点、要望などがあれば自由に記載、記入してくださいということで、自由記述の欄がありますし、次のページには問 17、一番最後の円グラフでございまして、本校に入学してから学生生活は充実していましたかという質問に対しましては、とても充実していた、やや充実していたというのを合わせますと合計で92.5%ということで、施設に対して御意見ある学生もいらっしゃるのですが、それを指導員がいろいろ熱い指導でサポートした結果、充実していたという方が95%と高い数値となったのかなというふうに思われます。

あとその裏の自由記載ですが、振り返ってみてどうでしたかという卒業生からの意見となっております。いろいろ忙しかったけれども、楽しく過ごすことができたですとか、資格をいろいろ取得することができたですとか、そういった意見をいただいている、そういった表となっております。

資料3についての説明は以上となります。

○岡田寛史会長 どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの説明に対して御質問、御意見ございましたらよろしくお願いたします。

では、吉田委員。

○吉田ひさ子委員 吉田です。グラフの中で、就職先を考えるとどのような会社を重視したかということなのですからけれども、学生さんは安定とか将来性ということを考えているようなのですけれども、具体的にはどういう点で安定だとか将来性があるという判断をしているのでしょうか。

○佐々木定住推進・雇用労働室主査 就職面談ですとか、いろいろヒアリングをしながら企業選定の手伝いを我々指導員がするのですが、どういったところ、私の感触といたしましては、福利厚生を見ているような学生もいますし、将来性としましては、今後産業として発展しそうな産業、例えば私は建築の指導員なのですけれども、建築であればますますどういった住宅がこれから需要があるか、例えばグリーン社会ですとか、そういった話が最近話題になっておりますので、省エネですとか、高气密、高断熱の住宅なんかがこれから伸びてくるというふうに捉えた学生は、そういったことに力を入れている企業を選定するというような内容になっております。

- 吉田ひさ子委員 分かりました。安定が福利かどうかというのは分からないところなのですが、どちらかという会社というよりはその業種が伸びるかどうかというような視点で見てくださっているということですね。
- 佐々木定住推進・雇用労働室主査 はい、そういった視点もありますし、あとは総合的にとか、あとは簡単に給料で絞っていくような学生もいたりします。
- 吉田ひさ子委員 それと学生さんがエアコンが欲しいということがあって、ぜひそういうのはかなえてあげたらいいのではないかと思います。以上です。
- 佐々木定住推進・雇用労働室主査 ありがとうございます。昨年度も同じようなエアコンについての卒業生のアンケートがございまして、今年度できたことといたしましては、二戸校に新たにパソコン教室ですとか、視聴覚教室にエアコンがなかったものなのですが、今年度工事をする運びとなってございますし、あとは産技短で一部寮におきましてルームエアコン、簡易なものなのですが、対応できるように今進めておりまして、限られた予算の中ではあるのですが、できるだけ学生の環境よくなるように進めております。
- 岡田寛史会長 そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

(2) 協議・意見交換

第11次岩手県職業能力開発計画の令和4年度実績と令和5年度取組みについて

- 岡田寛史会長 それでは、次に協議・意見交換に入ります。第11次岩手県職業能力開発計画の令和4年度実績と令和5年度取組みについて説明をお願いいたします。
- 飯坂定住推進・雇用労働室主任主査 定住推進・雇用労働室の飯坂と申します。私から資料4について御説明させていただきます。着座にて失礼いたします。
資料4を御覧いただきたいと思っております。資料4は、第11次岩手県職業能力開発計画で職業能力開発の基本施策として掲げられている各達成すべき目標を一覧にしたものでございます。2枚目以降につきましては、基本施策の具体項目を記載しております。非常にボリュームがあって、細かく説明すると相当時間を要しますので、ダイジェストということで1枚表紙をつけさせていただきました。まずは、そちらのほうを説明して、あとは5年度の取組は特徴的なところを付け加えさせていただければと思っております。
まず、1枚目の各年度で達成すべき目標についてですが、目標に対しまして100%以上の達成でA評価、80以上100%未満でB評価、80%未満でC評価としております。評価の説明とC評価となった内容について御説明いたします。産業構造・社会環境の変化を踏まえた職業能力開発の推進についてですが、これは第11次の職業能力開発基本計画においてSociety5.0の実現に向けた社会の構造改革や社会全体のDXの加速化の促進を踏まえ、ITや新たな技術を活用して職業能力開発推進を図るものとしております。
令和4年度のIT分野の在職者訓練の修了者数ですが、167人の目標に対しまして200人の修了者となって、達成度は119%となるAとなっております。在職者訓練とは、配付資料の能力開発セミナーという冊子のものがございます。こちらは、令和5年度版でございますけれども、事業所等で仕事をされている

方に業務に必要な知識、今後取り組みたい業務スキルを2日以上以上の訓練を通じて身につけてもらうものとなっています。新入社員研修や昨年度の審議会で御意見いただいた経営者向けの研修とか、あるいは目標にございますITに関わる技術研修や技能検定に関する研修を設定しているところがございます。在職者訓練の全てのセミナーの修了者数についてですが、1,880人の目標に対しまして1,728人の修了、達成度92%でBとなっております。

介護・医療・IT分野の離職者等再就職訓練の受講者数・就職率についてです。離職者等再就職訓練といいますのは、通称、委託訓練というふうに我々言いまして、ハローワーク等の指示で離職された方が3か月から6か月の短期訓練とか、あるいは最長2年という訓練がございます。専門学校様のほうに委託して離職者が2年間、一般の学生と同じように訓練を受け正社員就職を目指すというコースがございます。そういうものを行っているコースが離職者等再就職訓練というふうに呼んでおります。介護・医療・ITにつきましては、343の受講者、87.2%の就職目標に対しまして345の受講者、81.9%の就職率でそれぞれA、Bとなっております。県全体の離職者等再就職訓練の就職率は、80%の目標に対して76.5%の就職率でBの判定となっております。こちらについては、1,182名の受講者が令和4年度ございまして、現在の就職率は76.5%となっております。現在というのは、訓練が終わった後3か月間就職定着期間というのがありまして、それが終わらないと数値が上がってこないことがありまして、令和4年度分がまだ一部動いている形でございまして、現在76.5%となっております。

次に、全員参加型社会の実現に向けた職業能力開発の推進で、こちらは非正規雇用労働者の就職の促進とか、正規雇用の経験が少ないものを安定した雇用に結びつける企業実習を行い、就職に結びつけようという訓練でございます。また、障がい者の雇用なども労働関係機関と連携を図りながら職業能力開発の機会を提供するというものでございます。目標となっておりますのは、障がい者の訓練受講者数で、26名の目標に対しまして19名の受講、73%の受講率でCとなりました。障がい者の訓練につきましては、県内の事業様や社会福祉法人、認定職業訓練協会などに委託しまして障がい者の適性や雇用ニーズに対応した訓練を実施しているものでございます。令和2年度から4年度までコロナの影響で受講者、委託先が少なかったのが一因としてC評価となっております。これについては、コロナが5類移行になったことによりまして、訓練現場からは受講者、受託先とも回復基調にあると伺っております。この訓練を受講後、労働局で行っております障がい者トライアル雇用につながることを受講者に説明して、受講者の確保に努めていきたいと考えております。

次に、労働者の自律的・主体的なキャリア形成の推進でございます。こちらは、キャリアコンサルティングを通じて定期的に自身の能力開発の目標や身につける知識、技能を確認することができる機会の提供、能力の向上を通じて主体的にキャリアを形成できる整備環境を図っているものでございます。目標となっておりますのは、技能検定受検者の合格者数になります。1,345人の目標に対しまして854人の合格となり、達成率63%でCという評価になりました。合格者が少なかった理由としましては、受検者が令和4年1,499名の受検者で、ここ数年で一番少なかったこと、その合格率が例年60%で推移しているのですけれども、56.9%とやや低かったこと、また労働者数の減少がありまして、平成30年66万人いた労働者がここ5年で減っていること、63万人に

なっているというようなことが一因と見ています。また、高校生の受検者数が減少していきまして、令和3年から令和4年で約半数、500人ほどから250人の受検者に減っているということが挙げられます。これは、受検料、手数料の減免対象が令和4年度から縮小となって高校生が対象外となっていったというふうなことが原因となっています。対応といたしましては、引き続き受検機会の確保と円滑な実施を図るため、県立施設等の受検会場の提供や検定員となる指導員の派遣を今後も引き続きやっていくこと、またものづくりの生産性向上、高い技術力の証明に技能検定合格者、通称技能士と呼ばれますけれども、技能士の活用を企業にアピールして受検者の増加を図っていくこと、また高校生におきましてはものづくりキャリア形成の入り口としまして、今後高校に技能検定の受検のPRをしていこうというふうにご考えております。

次に、技能継承の促進でございます。こちらは全国レベルの技能競技大会の参加促進を図りまして、技能士の社会的評価、技能水準の向上を図り、また優秀な技能士の表彰などを行うものでございます。目標としましては、技能五輪全国大会の出場者数になっておりまして、30人の目標に対しまして13名の出場となり、C評価となりました。技能五輪は、成年技能者を対象としまして、成年技能者に努力目標を与えまして、広く国民に技能の重要性、必要性をアピールし、技能尊重機運の醸成を図るものでございます。昭和38年から実施しております。令和4年度におきましては千葉県で行われまして、技能五輪全国大会に9職種、13名の選手が出場したところで、その結果、4職種、5名が入賞し、そのうち時計修理職種で金賞、1位というふうな令和4年度の結果となったものでございます。

また、障がい者の技能競技大会、通称アビリンピックには8職種、8名が出場しまして、3職種、3名が入賞いたしました。C評価の理由としましては、令和元年度までは26名とか27名で選手が毎年出場していたのですが、コロナの影響で令和2年度以降出場を見合わせる選手が多くございまして、ここ3年間、令和2、3、4で12名、13名で推移してきたところです。ただ、東北各県見ましても山形県に次いで2番目の出場者数というふうになっていまして、対応につきましては引き続き地方予選の実施を行いまして、選手の掘り起こし、それと地方予選も9職種から16種に拡大をする予定でございます。そういうことによって、選手の確保を今後努めていきたいというふうにご考えております。

最後に、職業能力開発施設における産業人材の育成推進についてでございます。こちらは、県立職業能力開発施設において高度、多様化していく技術について、それに応える人材を育成するために職業能力開発を効果的に実施すること、また雇用機構と呼ばれるポリテクセンター岩手などにおいて離職者、在職者を対象にしたものづくり分野の職業訓練の実施、地域にあります職業訓練法人などにおいて離職者、在職者、障がい者等を対象に委託訓練や認定訓練などを実施していく、それを支援していくものでございます。目標としましては、資料1でも御説明いたしました県立職業能力開発施設における県内の事業所の就職が設定されています。81.2%の目標に対しまして83.7%となり、A評価となりました。引き続き卒業生の県内就職に向けて本庁、各職業能力開発施設において努力していく所存でございます。

以上、令和4年度の実績とC評価への対応を説明いたしました。2枚目以降は、詳しい4年度実績と令和5年度の取組が記載されております。引き続き11次職業能力開発計画の目標を達成すべく各項目が継続もしくはリバイスさ

れておりますので、御確認いただければと思います。

1つ、令和5年度の新規事業を御紹介いたします。右下のページが、2枚目以降の番号で3というところがございます、右下のところの3です。そこの左上の欄にデジタルリスティング推進業務の実施というのがあります。こちらは、本県のDXを推進するために働いている方を対象にデジタルツールの利活用とか業務に対応したアプリケーション開発セミナーを県内2会場で展開していくものでございます。来月の7月から盛岡会場を皮切りに開始いたしますので、ここで御紹介させていただきます。本日は、この取組に関しまして、5年度を取組に関しまして御意見いただくとともに今後力を入れていく取組について御質問、御意見ありましたら今後の策定に反映させていきたいと思っておりますので、御意見いただきますようお願いいたします。

私からの説明は以上です。続きまして、前回審議会において第8次計画の資料提供を求められておりましたので、参考資料で御説明いたします。

○金今定住推進・雇用労働室特命課長 定住推進・雇用労働室の金今と申します。資料につきまして、参考資料1、2を御説明させていただきます。着座にて説明をさせていただきます。

まずは、参考資料2でございます。こちらが前回の審議会で提出を求められていた第8次県立職業能力開発施設再編整備基本計画でございます。こちらが17年度に策定されたもので、こちらの中身を要約した資料1となっております。

資料1を使って御説明させていただきます。1の県立職業能力開発施設再編整備基本計画策定の状況でございます。能力開発施設の取り巻く環境とか、地域企業のニーズの変化、本県が進める産業の政策を踏まえて、支える技術・技能者を養成するとともに、県民を対象とした職業能力開発を行うための施設の適正な配置と、訓練内容の充実、施設の運営の効率化等を図ることを目的として策定されたものとなっております。

過去の計画につきましては、こちらの表でございます。先ほどちょっと御説明がありました岩手県職業能力開発計画がございます。こちらは、先ほど申し上げたとおり第11次の計画がございまして、大体5年ごとに更新をされているものでございます。県立職業能力開発施設の再編整備計画は、第8次るとき、平成17年度ですね、平成18年の2月に1度策定された状態で、終わっているという形になっております。

2のところでございます。当時のところの基本計画に記載されていた計画の実施の状況というものでございます。これにつきましては、現在産技短の2校と3高等技術専門校について記載しており、(1)産技短の本校につきましては、当時メカトロのところの修了者を対象にして専攻科のところをつくり出すという計画になっておまして、こちらは実施済みです。

(2)の水沢につきましてはその当時の現行をそのまま継続としています。

(3)の千厩校につきましては、施設の新設とか建築科普通課程の設置とかいろいろあったのですがけれども、最終的には未実施になっています。

(4)のところの宮古の技専校につきましては、金型関連ということで、これを設置するというので、こちらを実施した、

(5)の二戸の技術専門校については、伝統工芸科を産技短の産業デザイン科に統合集約する。これを実施になっております。

3の次期県立職業能力開発施設再編整備計画についてでございますけれども

も、先ほど1で申し上げたとおり策定時の状況につきまして、現場のニーズとか、企業さんの御希望だとか、県内産業界の社会的状況の変化もかなり間が空いておりますので、これらを今の状況に整理し直した上で、今後の方向性を皆様のところにお示しをしたいと考えております。

私からの御説明は以上となります。こちらにつきましてもいろいろ御意見いただきながら進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○岡田寛史会長 どうもありがとうございました。

では、ただいまの事務局の説明に対する御質問、御意見ございましたらよろしく願いいたします。

田鎖委員。

○田鎖健一委員 田鎖です。いつも大変お世話になっております。

私からは1点、資料4の3番、労働者の自律的・主体的なキャリア形成の推進の目標項目にされている技能検定合格者数ですが、ここを受検者数というか、受講者数に変えていただきたい。あくまでも合格は本人の努力であって、サポートする企業であったり、学校であったり、県であったりという側の努力の見えるような形にしなければいけないと思いますので、合格するかどうかは本人の努力ですから。上の障がい者のところは受講者数になっていますし、4番の技能五輪も出場者となっています。技能検定だけが合格になっています。ここはぜひ受検者数にしていただいて、ここを増やさないことには合格者数も増えませんので、ぜひそこは変更をしていただくように検討をお願いしたいです。以上です。

○菅原定住推進・雇用労働室労働課長 御意見ありがとうございました。そうですね、私も4月に来てこの技能検定合格者数、受検者数の関連、今、全体的に下り坂になっているということで、研究しているところなのですが、受検者数というのが大事だというのは、承知しているところです。ちょっと中で検討させていただきたいと思います。

なお、指標としては県民計画のアクションプランでもこの技能検定受検者合格者数というのを使わせていただいているので、そこら辺との整合性も考えなければいけないので、宿題とさせていただければと思います。

○田鎖健一委員 お願いします。

○岡田寛史会長 そのほかいかがでしょうか。

お願いします。

○小林齊委員 今回の田鎖委員さんの質問の内容は、資料4の3番の技能検定の内容なのですが、ちょっと聞き逃したかもしれないのですが、ものづくり分野の内容ということでしたけれども、具体的にこの検定の内容はどんなものがあるかということをお教えいただきたいなと思ったのですが、

○佐々木定住推進・雇用労働室主査 技能検定の職種におきましては、岩手県ですと昨年度は100職種公示しております、そのうち実施できたものと実施できていないものとあります。例えばですが、建設関係の技能検定であったりとか、そのほかにもものづくり関係で機械関係の技能検定ですとか、多岐にわたるものではあるのですが、建設関係でいいますと建築大工の技能検定とか、大工でも型枠大工の技能検定ですとか、ものづくり技能者の技能の水準がある一定レベルまでの力があるかどうかというのをはかる検定になっております。

- 小林齊委員 ありがとうございます。100もあるとということで知らずにきいてしまいました。ありがとうございます。
- 岡田寛史会長 そのほかいかがでしょうか。
佐藤委員。
- 佐藤茂生委員 佐藤でございます。この計画を進めていく上で、ある程度達成度を目標に挙げていくというのは、入校してもらうということが大変大事だと思いますし、入校してからの学校というか、施設の環境とかを確保していくことも大事なのかなと思っています。
報告事項であった卒業・修了生のアンケート等を踏まえたところで、PCとか、そういった部分の機能的な部分というか、そういったのが厳しいアンケート部分が前もあったと思うのですけれども、今回もまたあったというところは、どういうふうにそこの改善とかしていくものなのか、少しお聞かせいただければと思います。
- 金今定住推進・雇用労働室特命課長 ただいま佐々木のほうからお話をさせていただいたとおり、県の予算の範囲内ではございますけれども、必要なところで優先順位をつけてできるだけ要望あるところを対応させていただいている状況になっています。全てが全てすぐ対応できる状況にはなってございませんので、取りあえずやれるところ、あとは修繕しなければならないところもございますので、そこも併せながらやらせていただいている現状でございます。
- 佐藤茂生委員 はい、分かりました。このアンケートを取って、どの順序が優先度になっているかというのと、修繕をしなければならないところがあって、それが改善されたけれども、こういうアンケート結果が出ているものなのか、その辺もし分析しているとか、分かっているものがあればお聞かせいただきたい。
- 金今定住推進・雇用労働室特命課長 アンケートを取ったときと修繕している最中のところがございまして、完全に連動しているわけではないのです。直したところはそれなりに幾らかよくという傾向はございます。
- 佐藤茂生委員 分かりました。PCは更新されているのですか、どうなのですか。
- 金今定住推進・雇用労働室特命課長 パソコンもこれからになります。
- 佐藤茂生委員 そうなると、こういったアンケートがやっぱり前もだったのですけれども、同じような書きぶりが出てくるのは至極当然なのかなと思っています。入った人が、受けて勉強したくて、就職したくて来ている。その中でこういうふうな操作をしたいというのに、(パソコンが)固まって動かない、再起動しなければならないとかと書いている部分は、順番的には先なのではないかなと思うのですけれども、限られた予算の中で工夫して全部ができなくても段階的にやっていくとか、そうしないとせっかくいいこういう訓練やっている施設と、この審議会でどういうふうにしていこうかという話をしているさなかで、可能であれば広く周知して広まって、ここに入ってくるという人たちがいるような環境を求めるといのは必要なかなと思っていますし、今の世の中に合わせたものをやっていくということであれば、そこのPCの環境とかが先なのではないかなと思っています。前回も言ったのですけれども、お聞かせいただいたところです。引き続きその部分で順序を決めながらとか色々あると思いますが、御検討のうえ、予算の中での組立てなどを、ぜひともお願いしたいと思います。
- 金今定住推進・雇用労働室特命課長 ありがとうございます。
- 岡田寛史会長 そのほかいかがでしょうか。
では、佐々木委員。

○佐々木正人委員 今いただきました参考資料1、参考資料2というのが出ておりました。前回、多分、私のほうから再編計画する上で、前にどういう議論になって、どういう形になっていたかということで、資料をつけていただければということでお話しして、これが今回提出されたということになっていると思うのですが、これを参考にしていますと、そのときのニーズによって少しずつ再編計画を立てていくということにはなっているようなのですが、今これを出して、県としてどういうふうに再編計画案として立てていくのかという骨子的なものももしあればお聞かせいただければありがたいかなということです。

○金今定住推進・雇用労働室特命課長 私から御説明をさせていただきます。

先ほどお話しさせていただいたとおりなのですが、当時、ここにあるように企業さんのニーズだとか、あとは就学生とかそういう方たちのニーズとかを踏まえて、どのようなカリキュラム、科を設置するのか、どういう形にやっていくかというのを検討していく流れになっていくと考えておりますので、まずは今の現状としての岩手県としてのニーズです。それを把握するのが先になっていくかなと思っております。

○佐々木正人委員 県のほうでも大変人材不足、県庁の人が人材不足になって、岩手県の中でも人材不足と人口減少というのが絡んでくるわけであって、この部分でいきますと沿岸とか、そういうところは人口がどんどん減っていったという中で、人材を確保する上で学校というのは確かに必要なことだとは思いますが、これから先を見た場合、なくするなどは言わないのですけれども、必要などころにはちゃんとしっかりと応じて対処していくというのが必要ではないかなということでもあります。先ほどもちょっと質問でも話した中でいきますと、今現状でいけば自動車関係が整備の関係が人材不足で、これから車もまた今デジタル化になってきているということの中において、そういった分野、あとGX的な分野がこれから伸びていくという中においては、それらも踏まえて、沿岸でも取り組めるようなところもしっかりと取り組んでいけるような形を構想していただければありがたいかなと。

ただ、先ほど来から言っているのは寮の問題も多分結構あると思うのですけれども、さっきの議論の中でも読ませていただいたのですけれども、生徒さんの環境というのもしっかりとやっていかなければならない、予算のある中でやらなければならないのですけれども、ただちょっと私が気になったのは寮の管理者の人によってルールが違ふとか、合わせるのが大変だということのもちらっと見たものですから、そういうのも寮によってそういったルールが違ふということのもいかなものかなというものもあつたものですから、その辺も含めて整備計画はこれから本当に大事なところで、少ない人材をどう育てていくかというのが一番大事になると思うので、そこらは県もしっかりと予算を「そういった面からします」とつけてもらって整備計画、そして再編計画を立てていただければと思います。よろしくお願ひします。

○岡田寛史会長 そのほかいかがですか。

○千葉智充委員 千葉です。教えてほしい部分と、あとは単純に感想というところなのですけれども、参考資料でいただいたものの2を見て正直なところ愕然としているのですが、12ページです。平成16年実績として各種訓練校でやられていた訓練科でありまして、※が2つついている訓練が休止中ということが書いてあって、これ見ただけでも手に職というか、本当に手でやるものが軒並みなくなっているのだなと、IT、DX、デジタル化、我々建設業ですか

ら、溶接もないわけでもないし、漠然とした不安を感じています。なので、これではやっぱり会社側、企業側で訓練するのがもう当たり前なのかなということ。残念ながら、景気の波ですから、この型枠大工であったり、左官であったり、会社もなくなっていつている時期です。これは、大きい話なので、DX、IT化というニーズはそちらでしょうから、そうなのでしょうけれども、その土台となるものづくりどうするのかという単純な不安です。

あと、これは今どうなのですか、13 ページ目に書いてありますけれども、当時中卒者というのは、ああ、そうだったのかなというのがあって、中卒者の就職動向で特徴的なことはということが書いてあるのですけれども、現在中卒者の方というのは採られているのですかというのを教えてほしい、中卒の方は入校されているのかどうかちょっと教えていただきたいなということ、もしこういう子が今現在いたとしたらその受皿はないのかなということを感じたので、そこを教えていただければと思います。

○菅原定住推進・雇用労働室労働課長 今のところは中卒者の…。

○千葉智充委員 中卒者の職業訓練校に入校されている方はいらっしゃるのでしょうか。

○佐々木定住推進・雇用労働室主査 ありがとうございます。県立の公共職業能力開発施設、産技短とか高等技術専門校は、高卒者のみの入校になっております。大船渡の県立の訓練校があったときが最後で、震災の後、中卒課程はなくなってしまったというのが県立でございます。そのほかに認定校というふうに我々言っているのですけれども、認定職業訓練校におきましては、中卒者を受け入れている認定校もありまして、人数の把握は今覚えていないのですけれども、今年度の春から始まった訓練に対して若干名中卒生がいたなというふうには確認しております。

○千葉智充委員 ありがとうございます。ちょっとほっとしましたというか、今社会問題になっている不登校など、社会復帰ではないですけれども、社会に出ていくチャンスが少ないかなと、そういう意味で、当たり前とまでは言わないですけれども、何かしらの事情でこういう学生さんたちがいる中で切り取られていくのはちょっとなというようなことを感じたので、教えていただきたかったです。ありがとうございます。

○佐々木定住推進・雇用労働室主査 ありがとうございます。

○岡田寛史会長 そのほかいかがでしょうか。

では、伊藤委員。

○伊藤智恵子委員 釜石の伊藤です。今お話ありましたけれども、中卒の就職者というのが釜石の訓練校は中卒課程でやっておりますので、中卒者も受け入れております。最近は確かに高卒の方が入ってきますが、中にはやっぱり中卒の方もおります。なので、中卒課程で訓練を実施しております。

それで、先ほどの参考資料2は、平成16年度の実績ですけれども、リーフレットの資料といえますか、岩手県の職業能力開発施設の御案内のところの中を開いていただきますと、2として認定公共職業訓練校の一覧がございます。ここに普通課程の訓練科名が書かれております。ですから、平成16年度の訓練科と現在は違ってきております。ちなみに、釜石の訓練校は令和4年まで普通課程の木造建築科、建築設計科、配管科、この3科を続けてきましたが、令和5年度になり配管科の入校生がゼロということで、2科になってしまいました。どこでも入校生の減少というのは共通の問題だと思います。どのような対

策を取られるのでしょうか、県として。何か御意見ありましたら参考にしたいと思えます。

それから、資料4の4番、技能継承の促進のところ、技能五輪全国大会は広く国民にアピールしたということですが、「広く国民に」ということで、小学生、中学生、高校生、学校の先生とか、技能五輪を見る機会があるのでしょうか。実際釜石の訓練校でも今までに訓練生が選手として建築大工とか配管とか五輪の選手として出場しております。その際、何度か私も実際、五輪の大会を見に行くことができました。なので、ぜひ小学生、中学生、高校生、学校の先生とか、ぜひ見に行ってください。見れないのであれば、ライブ中継とか何かあるかと思うのですが、学校の教育の中で、授業の中でとか、何か見せる機会とかあったらいいなと思えますし、先生も研修を見に行くとか、そういうことができたなら将来の子供たちも職業の選択の自由といえますか、そういうのにつながるのではないかと思います。

以上です。

○岡田寛史会長 ありがとうございます。事務局お願いします。

○菅原定住推進・雇用労働室労働課長 御意見ありがとうございます。私のほうからは、まず認定職業訓練校の訓練生の減少についてどう考えているかということについてお答えしたいと思います。

本当に委員さんが最前線にいらっしゃるの、私が言うのもあれかもしれませんが、やっぱり根の深いというか、大きな問題と考えておられて、やっぱり長期訓練において、先ほどおっしゃられたとおり訓練科の訓練生数が低下しているということで、人口減少、労働者不足、大きな問題の中から、あと事業者さんのほうが自分たちの従業員を訓練に出すというのがやっぱり厳しい状況にあると、そこら辺についてどんな対策を打っていいのかというのは、また改めて考えなければならぬと思っています。今までは企業に対する理解促進とか、短期訓練に出しているところへの働きかけとか、そういうことで進めていたのですけれども、また何か考えていかなければならぬなというふうに思っています。大きなところでまた考えていかなければいけないと思っています。

○佐々木定住推進・雇用労働室主査 私からも技能五輪の部分について御説明申し上げます。

技能五輪につきましては、昨年度まではコロナ禍で入場者制限をやっておりました。私はちょうど配管の技能五輪選手引率で行った時期でもあったのですが、その代わりの手段としましては、おっしゃられましたようにライブ配信を職種ごとに行っておりましたし、恐らくアーカイブというか、後から見られる動画も残っております。また、併せてそれらを小中学校とか高校生なんかに見せる、現地に出るのが一番肌感覚でその迫力ですとか、音とか、選手の本気度とかそういうのが伝わると思うのですけれども、なかなか現地に行けないような方に対してこういう動画で確認する手段もありますよみたいなものを周知するというのも非常にいい効果が得られるのではないかなと思えます。周知する方法や全国大会は各地でやられるので、今年度は愛知県でやるのですが、そういった遠くの大会であっても動画で見られるよということを何かしらでお知らせできればいいのかなというふうに思っています、非常に貴重な御意見をいただきました。ありがとうございます。

○飯坂定住推進・雇用労働室主任主査 補足説明いたします。

ライブで見る、動画で見る、いろいろあるのですけれども、一つ今年度も11月8日、資料で言うと資料4の13ページのところの中段に岩手県若年者技能競技大会11月8日、岩手県産業文化センター、ツガワ未来館アピオ、そちらのほうで岩手県内の技能競技大会が行われます。今まで御意見いただいて、小学校、中学校にこういう競技大会あるので、遠足ではないですけれども、そういう機会を見ることができる、一般には一応出しているのですけれども、なかなか小学校、中学校には確かに行ってくださいねとPRしていませんでしたので、PRに努めたいなと思っております。ありがとうございます。

○岡田寛史会長 そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

6 その他

○岡田寛史会長 それでは、最後にその他に移りますけれども、まず事務局から何かございますでしょうか。

○飯坂定住推進・雇用労働室主任主査 事務局からはございません。

○岡田寛史会長 それでは、次に委員の皆様から何かその他としてございますでしょうか。よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

○岡田寛史会長 それでは、予定されている議事は以上であります。円滑な議事進行に御協力いただきまして、どうもありがとうございました。

それでは、事務局にお返しします。

○菅原定住推進・雇用労働室労働課長 岡田会長ありがとうございました。

それでは、ここで高橋商工労働観光部の副部長から本日の審議会の全般を通じて所感を申し上げます。

○高橋商工労働観光部副部長兼商工企画室長 本日は審議会、御熱心に御審議いただきまして大変ありがとうございます。

審議会の時間が2時間ということでございましたけれども、委員の皆さん集まりますと、なかなか十分な時間ではなかったかと思うのですけれども、事務局側の説明も長くなっている部分も反省ですけれども、できるだけ委員の皆様時間に時間確保できるように次回以降も配慮していきたいと思えます。

本日は、多岐にわたりまして様々御意見頂戴したところでございまして、特に本日審議会のほうでも様々我々まさに職業能力開発審議会というところでもございますので、これからの職業能力開発をどうやって進めていこうかという中で、様々御意見頂戴したいところでございますので、本日いただいた御意見につきましては今後いろいろと参考とさせていただきます。

その中でも、例えば事務局のほうからお話ありました大学との連携とか、そういったところでいろいろ指導も、まず今のニーズに合ったような指導体制ですとか、あとは環境整備ということであれば、先ほど佐藤委員のほうからもPCだとか、基本的なそういった部分の環境整備ですとか、そういったところも御指摘をいただいているところでございまして、そういったところも踏まえまして、これからの能力開発の進んでいく改善点については様々詰めてまいりた

いと思います。

それから、最後に整備計画についても今日話がありました。佐々木委員のほうからも人口減の中、今後の整備の在り方についてという御意見頂戴したところであります。まさに全くそのとおりでございまして、内部のほうでまさに自動車、半導体、それから人口減の問題、それからこういった職業開発整備の在り方というところで、しばらく震災以降その辺の整備というところがなかなかきちっとした格好ではなかったのですけれども、まさに今の状況を踏まえて今後の整備の在り方については、先ほど説明があったようにニーズを踏まえながら検討していくというところでございますので、その際にも様々皆さんからも御意見頂戴したいと思います。

本日は大変ありがとうございました。

○菅原定住推進・雇用労働室労働課長 ありがとうございました。

7 閉 会

○菅原定住推進・雇用労働室労働課長 それでは、これをもちまして本日の審議会を閉会とさせていただきます。御協力ありがとうございました。